

SIDR

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 10 巻第 26 号

第 26 週 (6月28日 ~ 7月4日)

発行年月日:平成22年(2010年) 7月 8日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

手足口病は警報発令 !!
腸管出血性大腸菌感染症は、3週連続して発生
ヘルパンギーナは急増

一類～五類全数報告感染症の発生状況(第 26 週)

- ・一類感染症----報告はありません
- ・二類感染症----結核 6名
- ・三類感染症----腸管出血性大腸菌感染症 1名(患者、血清型・毒素型: O157・VT2)
- ・四類感染症----報告はありません
- ・五類感染症----報告はありません

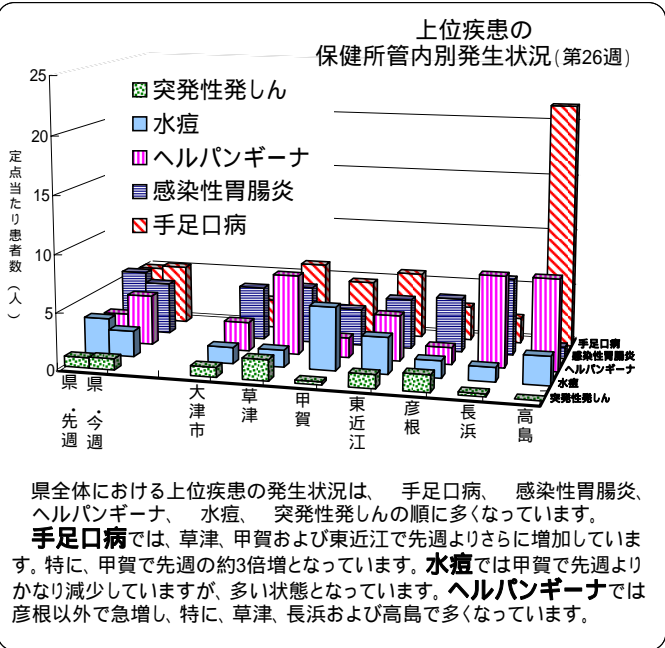
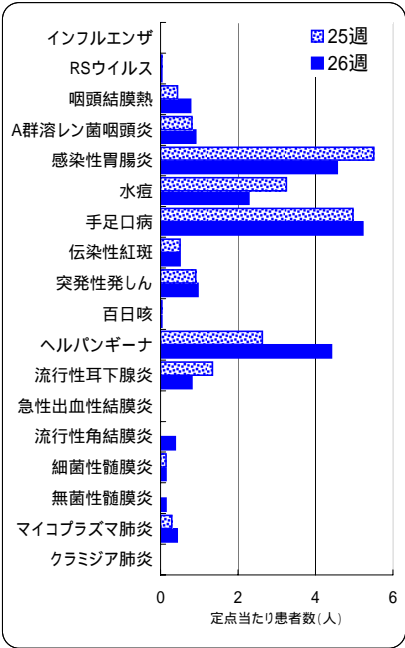
定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)

下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(656名)とほぼ横ばいで、今週は664名となっています。
今週増加した疾患および減少した疾患は、下記のグラフのとおりです(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

手足口病については、警報の発令基準^(*)により、県は7月2日に県内全域に警報を発令しました。

(*)「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」における、警報の開始基準値(定点当たり患者数 5.00)を超える保健所(草津、東近江、高島保健所)管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、水痘では甲賀保健所管内で、手足口病では草津、東近江および高島保健所管内で、伝染性紅斑では草津保健所管内で、ヘルパンギーナでは草津、長浜および高島保健所管内で警報発生基準値を超えています(詳細については、滋賀県における保健所管内別警報・注意報発生状況参照)。



県全体における上位疾患の発生状況は、手足口病、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、水痘、突発性発しんの順に多くなっています。
手足口病では、草津、甲賀および東近江で先週よりさらに増加しています。特に、甲賀で先週の約3倍増となっています。水痘では甲賀で先週よりかなり減少していますが、多い状態となっています。ヘルパンギーナでは彦根以外で急増し、特に、草津、長浜および高島で多くなっています。

滋賀県における保健所管内別
警報・注意報発生状況
(平成22年第 26週)

疾 患 名	県	保 健 所 管 内							警報開始 基準値	警報終息 基準値	注意報発 生基準値
		大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島			
水痘 定点当たり患者数(人)	2.28	1.43	1.50	5.50	3.20	1.50	1.25	2.50	7.00	4.00	4.00
手足口病 定点当たり患者数(人)	5.22	2.57	6.17	4.75	5.80	3.00	2.25	21.50	5.00	2.00	-
伝染性紅斑(リンゴ病) 定点当たり患者数(人)	0.50	0.14	1.83	0.25	0.40	0.25	0	0	2.00	1.00	-
ヘルパンギーナ 定点当たり患者数(人)	4.41	2.57	7.00	1.75	4.00	1.50	8.00	8.00	6.00	2.00	-

* 基準値はすべて定点当たり患者数(人)です。また、注意報の数字が入っていないものは、注意報の対象外という意味です。

★: 警報開始基準値または警報終息基準値を超えています。 ☆: 注意報発生基準値を超えています。

1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感 染 症 類 型	疾 患 名	平成22年 累積報告数		平成21年 累積報告数 ^(※1)		平成20年 累積報告数	
		滋賀 ^(26週)	全 国 ^(※2) (25 週 注)	滋 賀	全 国 ^(※2)	滋 賀	全 国 ^(※2)
一 類 感 染 症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二 類 感 染 症	結核	126	11,463	256	26,932	282	28,419
三 類 感 染 症	コレラ	0	4	1	16	0	45
	細菌性赤痢	2	86	0	180	3	320
	腸管出血性大腸菌感染症	7	1,026	27	3,886	53	4,322
	パラチフス	1	12	0	27	0	27
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	34	1	56	0	43
	A型肝炎	3	254	0	115	3	170
	オウム病	1	3	0	21	0	9
	コクシジオイデス症	0	0	0	2	1	2
	デング熱	0	59	0	93	2	104
	マラリア	0	28	0	56	1	56
	レジオネラ症	0	244	8	712	10	893
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	3	378	10	783	10	872
	ウイルス性肝炎	0	96	3	220	5	241
	急性脳炎	0	118	8	526	1	190
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	73	2	141	2	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	62	2	105	1	113
	後天性免疫不全症候群	1	678	9	1,449	11	1,568
	ジアルジア症	0	41	0	73	1	75
	梅毒	4	267	3	692	5	839
	破傷風	0	45	3	113	5	123
	風しん	5	51	2	148	2	309
	麻しん	1	263	7	739	39	11,015
新型インフルエンザ 等感染症	新型インフルエンザ(H1N1) ^(※3)	0	0	138	12,639	- ^(※4)	- ^(※4)

注：26週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報（SIDR）に掲載します。

- * 1：感染症発生動向調査年報暫定数（国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年3月）。
- * 2：全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています（国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照）。
- * 3：感染症法の一部改正（平成21年7月24日施行）により届出の対象となった報告数です（届出期間：平成21年7月24日～8月24日）
- * 4：感染症法の一部改正以前のため、集計は行っていません。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関（定点）といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです（患者報告数＝定点当たり患者数×定点数）。

(1)疾病別・週別発生状況(平成22年第21～26週、5/24～7/4)

定点区分	定 点 数	疾 患 名	定点当たり患者数（前週より増加 前週と同じ 前週より減少）					
			21週	22週	23週	24週	25週	26週
			5/24～	5/31～	6/7～	6/14～	6/21～	6/28～
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0.02	0	0.06	0.04	0	0
小児科	32	RSウイルス感染症	0.03	0.03	0.06	0	0.03	0.03
		咽頭結膜熱（プール熱）	0.81	0.75	0.38	0.63	0.44	0.78
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.13	1.00	0.66	1.13	0.81	0.91
		感染性胃腸炎	7.34	5.53	7.09	6.91	5.50	4.56
		水痘	2.63	1.81	3.41	2.06	3.25	2.28
		手足口病	1.31	2.06	2.06	2.69	4.97	5.22
		伝染性紅斑（リンゴ病）	0.16	0.25	0.56	0.78	0.50	0.50
		突発性発しん	0.28	0.28	0.28	0.69	0.91	0.97
		百日咳	0.06	0.09	0.03	0.03	0.03	0.03
		ヘルパンギーナ	1.22	1.38	1.44	1.59	2.63	4.41
眼科	8	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.94	1.38	0.84	0.97	1.34	0.81
		急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0
基幹	7	流行性角結膜炎	0	0.13	0.38	0.13	0	0.38
		細菌性髄膜炎	0	0.14	0	0	0.14	0.14
		無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0.14
		マイコプラズマ肺炎	0.43	0.57	0.29	0.14	0.29	0.43
		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0.14	0	0	0

各疾患における6週間の発生状況

増加傾向・・・伝染性紅斑、突発性発しん、手足口病、ヘルパンギーナ
減少傾向・・・感染性胃腸炎

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第26週、6/28～7/4)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	0.78	1.29	1.50	0	1.40	0	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.91	0.71	1.33	1.75	1.40	0.25	0.25	0	
感染性胃腸炎	4.56	4.71	5.00	3.25	4.40	4.75	6.75	1.00	
水痘	2.28	1.43	1.50	5.50	3.20	1.50	1.25	2.50	
手足口病	5.22	2.57	6.17	4.75	5.80	3.00	2.25	21.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.50	0.14	1.83	0.25	0.40	0.25	0	0	
突発性発しん	0.97	0.86	1.83	0.25	1.20	1.50	0.25	0	
百日咳	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	4.41	2.57	7.00	1.75	4.00	1.50	8.00	8.00	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.81	2.00	0.50	0.25	1.00	0.25	0.50	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.38	1.50	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0	3.00	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	

赤・太字

は警報発生基準値を超えています。

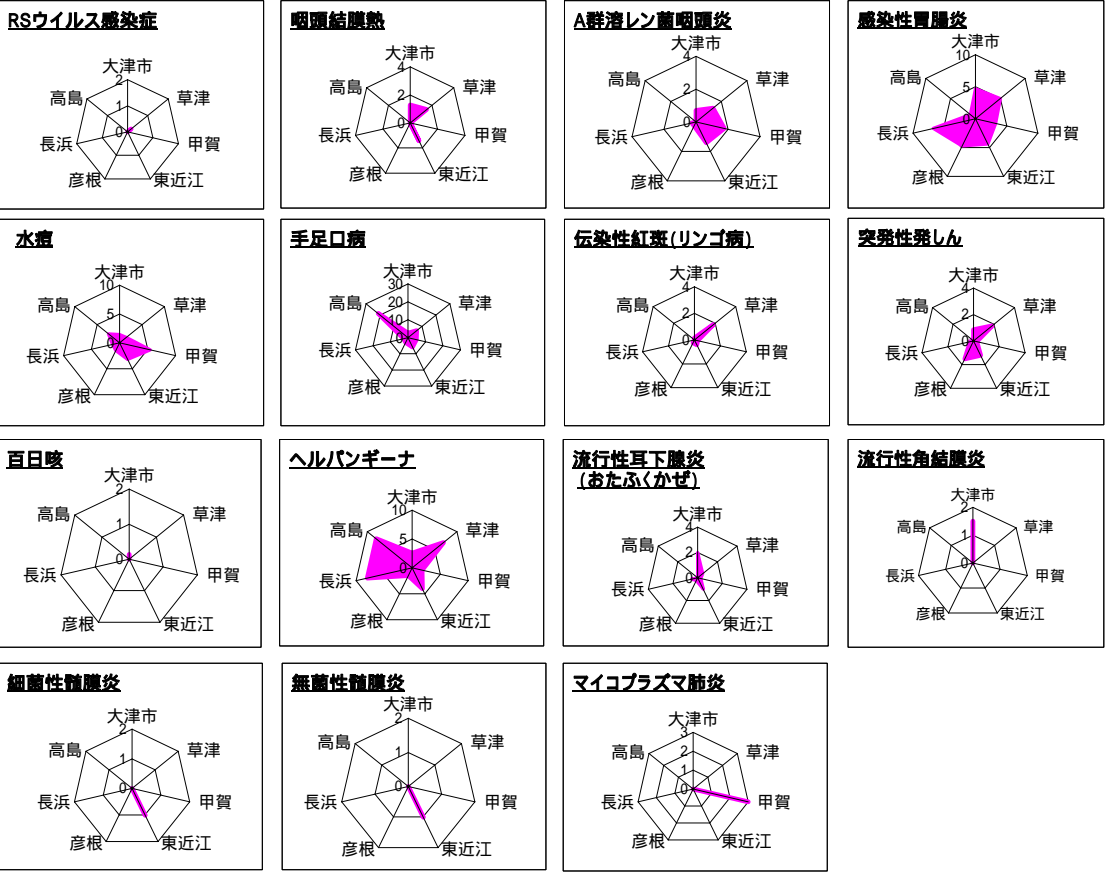
青緑・太字

は注意報発生基準値を超えています。

02468

定点当たり患者数

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



(3)今週の発生状況

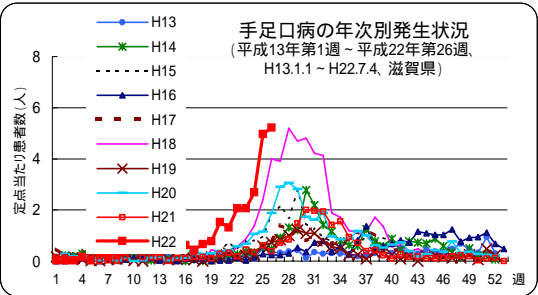
伝染性紅斑-----草津保健所管内では先週より減少していますが、 警報終息基準値(1.00)を超えています。

百日咳-----大津市保健所管内からの報告が増加しており、特に第21～26週(5/24～7/4)は連続して報告されています。

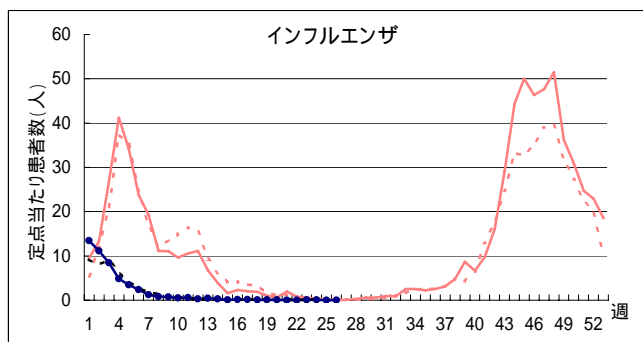
手足口病の発生状況

滋賀県における平成13～22年(第26週現在)の手足口病の発生状況は、右記グラフのとおりで、平成22年の週別発生状況は、過去の同時期よりかなり多くなっています。

年齢群別発生割合では、0～1歳 30.7%、2～3歳 38.8%、4～5歳 20.5%となり、5歳以下で全体の90.0%を占めています。また、22週以降は、6～7歳および8～9歳でやや増加しています。

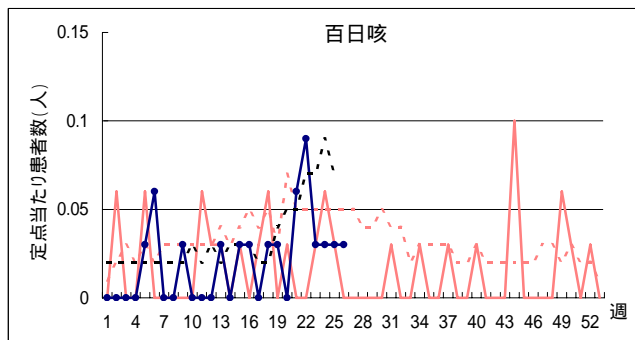
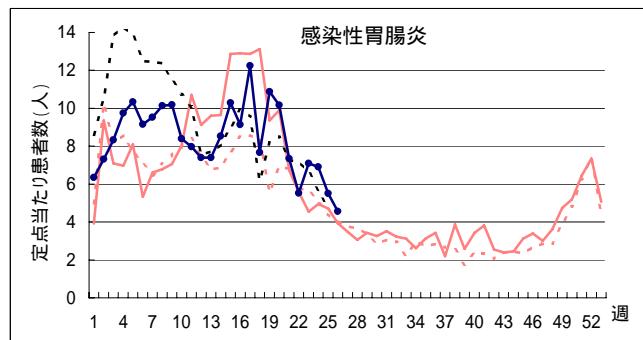
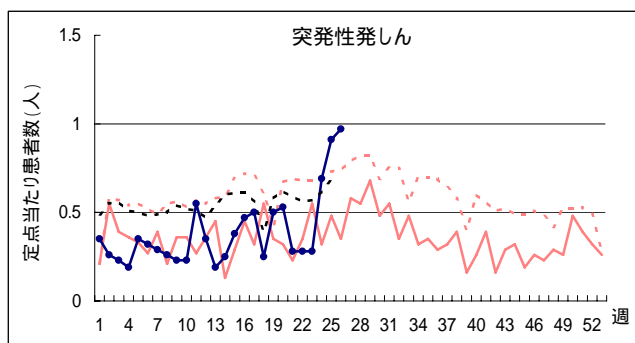
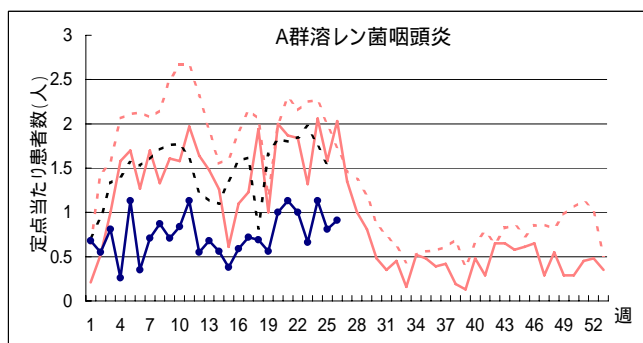
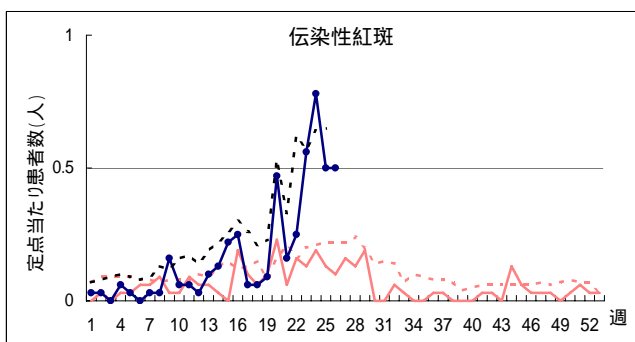
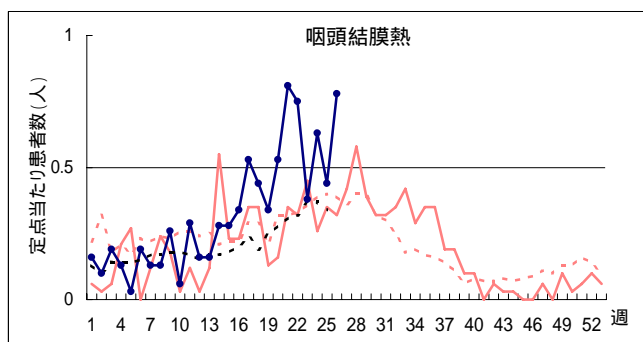
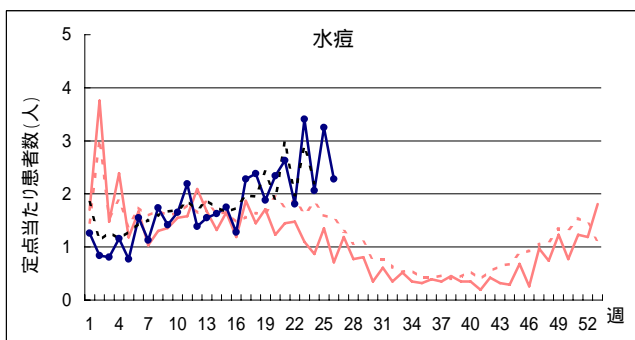
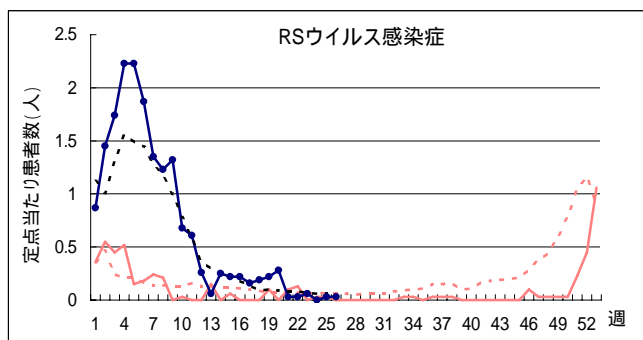


疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ～ 26 週、H22.1.4～H22.7.4)



H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ～ 26 週、H22.1.4～H22.7.4)

